

国語科

令和5年度 多摩市立貝取小学校 授業改善推進プラン 教科名

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能 正しい漢字の使用・慣用句などの基本的な語彙を増やし、身に付けること	イ 思考力、判断力、表現力等 目的に応じて、文章と図表などを結び必要な情報を読み取り、考えを書くこと
--	--

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・促音・長音・拗音の表記や助詞を正しく使うことが課題である。ア ・身近なことを表す語句を使って、文章の中で使うことがまだ難しい。イ	・正しい語句や文の表記の習熟の時間をとる。文の表記の指導では、特に「は」「を」「へ」などの助詞を正しく使用できるように個別指導する。 ・日記指導を行う。(日常生活の中で、したことや思ったことを書き表せるようにする。)	・毎週国語1単位時間 ・家庭学習(日記)	
第2学年	・促音の表記や漢字の定着が課題である。ア ・文章の中の重要な語句や文を考えて選び出すことに課題がある。イ	・漢字の表記の習熟の時間を取る。普段のノート指導で語句の表記について個別に指導をする。 ・場面ごとに内容を整理しながら、重要な言葉や文章にラインを引き、主要な文章の読み取り方を身に付けさせる。	・毎週国語1単位時間 ・読み物教材の単元	
第3学年	・日常生活での漢字を活用することに課題がある。ア ・整理して文章を書くことに課題がある。イ	・朝学習の時間に「漢字の力だめし」を定期的に行う。また、普段のノート指導で、既習漢字の活用を促す。 ・「はじめ・中・終わり」を意識した文章が書けるよう工夫したワークシートを使って指導する。	・朝学習の時間、毎単元 ・「書く」単元	
第4学年	・学年別配当漢字の定着が課題である。ア ・文章や話の必要な部分に注意して読み取ることに課題がある。イ	・漢字小テストを毎週末に行い、それに合わせた課題を出していく。 ・教科書の物語教材の学習において、児童同士の伝え合い学習を取り入れ、主要な内容の読み取り方を相互に学び合えるようにする。	・通年、毎単元 ・読み物教材の単元	
第5学年	・漢字の定着が不十分である。また、知っている漢字を適切に使うことができていない。ア ・考えを書くことが課題である。イ	・漢字の読み書きや語彙力を高めるために家庭学習も取り入れながら基礎・基本的な力を定着させる。 ・考えを書くための定型文を示すことや、組み立てをワークシートで示して指導する。	・朝学習の時間 家庭学習 ・通年、毎単元	
第6学年	・語彙力が少ない。ア ・目的を意識して必要な情報を読み取ること、それを表現することに課題がある。イ	・語彙を増やすために、言葉の意味を調べる時間を設ける。 ・文章を読むときに内容を整理して読む力を身に付けさせる。	・朝学習の時間 ・毎単元	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
低学年：習熟の場面で、タブレット端末を使用し、言語事項等の知識・技能の習得を図る。 【重点：個別】 中学年：タブレット端末を使用して、自分の考えを表現したり、共有したりする。 【重点：協働】 高学年：タブレット端末を活用して、情報を収集や整理をしたり、調べたことを基に発表をしたりすることを通して自分の考えを深める。【重点：個別、協働】	1年 めあてを振り返るとともに次時の学習への見通しをもたせる。 2年 めあての振り返りを学級全体で行い、次時の学習への見通しをもたせる。 中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。 高学年 本時のめあての振り返りでは、次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。

社会科

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて				
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等		
資料から必要な情報を見付けて読み取ること		社会的事象について考え、判断したことを説明すること		
	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 市内の公共施設や地図記号、方角についての知識に個人差がある。ア 自分の考えを言語化したり、文章化したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器や動画資料を活用して、視覚的に分かりやすく示したり、実生活と結び付けやすいように発問を工夫したりする。 ロイロノートの共有機能を活用し、友達の考えや文章に触れ、自分の考えをよりよくしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月 毎単元 	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> グラフなどの見方は理解しているが、必要な情報を読み取ること課題がある。ア 社会的事象に興味・関心をもち、社会的事象について自ら考えることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表や個人発表を通して、グラフを用いた課題を多く取り入れる。 社会科に関わる体験(経験談・映像学習を含む)を多く経験させる単元計画を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 通年、各単元 	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> グラフや資料などから情報を適切に読み取ることが苦手である。ア 課題意識や社会生活への関心が十分に高まっていないので、自分の考えをもつことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科との関連を図り、グラフや資料を正確に読み取る力を高め、データから分かった事実に基づいた表現活動の充実を図る。 社会的事象が、自分達の生活に結び付いていることを、時事ニュースや視覚情報などを効果的に用いて、学習への関心や意欲を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 朝学習の時間 	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> グラフなどの読み取る力に課題がある。ア 自分の考えをもち、説明をしたり、意見をまとめたりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科との関連を図り、グラフが正確に読み取れるようにする。授業で、資料の見方を確認する。 資料などから根拠をもち、自分の意見を言える場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 通年 	
<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>中学年 タブレット端末を活用し、写真や動画機能を用いて記録をしたり、調べてわかったことをまとめたりする。【重点:個別】</p> <p>高学年 タブレット端末を活用し、読み取った情報を分類・整理して話し合ったり、調べたことをプレゼンテーションなどにしたりして説明をする。【重点:個別、協働】</p>		<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。</p> <p>高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。</p>		

算数科

令和5年度 多摩市立貝取小学校 授業改善推進プラン 教科名

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基本的な計算力、図形の性質を身に付けること	日常の事象から算数の問題を見だし、筋道を立てて説明すること

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのないたし算と繰り下がりのないひき算を、具体物を使わずに答えられる児童が少ない。ア ・たし算とひき算が混ざった問題を、解決することが課題である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に操作する活動を十分に行った上で、計算カードを活用して、繰り返し習熟する。 ・キーワードや、図(ドット図)などを活用して場面を把握させ、たし算かひき算かが判断できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入時 ・家庭学習 ・授業1単位ごと 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのあるたし算と繰り下がりのあるひき算の習得において個人差が見られる。ア ・文章題から見いだした問題場면을正確にとらえ、立式することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードやプリントを活用し、繰り返し習熟する。 ・問題場면을イメージさせやすくするために、分かっていることや聞かれていることを整理して考えさせる。 ・視覚的な教材を活用し、具体的な場면을想像させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、宿題による通年指導 ・毎単元 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・九九の習得において個人差が見られる。ア ・問題解決の流れや結果を具体物、図、数、式を用いて表現することが課題である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の単元では、九九を復習する時間を入れる。 ・かけ算が使われている場面では、教員が式を用いて表現することで、日常的にかけ算の有用性を意識できるような発問を行う ・図、式などを自分の言葉で補い、図や式による表現のよさを考えさせる。苦手な児童には、ヒントを与え、言語化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・毎単元 	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさを回転の大きさとして捉えることが課題である。ア ・基本的な計算はできるが、計算に関する性質を見いだすことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習が終わった後も、朝学習や家庭学習で繰り返し練習をする。 ・垂直と平行の単元では、具体物を使い、角の大きさを視覚的に示す。 ・例えば、$350 \div 50$と$35 \div 5$の商が等しい事実から、他の例がないかを考えさせるなど、帰納的に考えるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、宿題による通年指導 ・全単元、授業時 	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の意味と計算のしかたの理解が課題である。ア ・図、表、式などを用いて、自分の考えを、筋道を立てて表現することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算が出てくる単元において、具体物や図を使い、等分除と包含除について振り返る時間を設ける。 ・四則演算や作図などの学習の定着には、朝学習、家庭学習、及び地域未来塾(放課後学習)を活用する。 ・図、表、式などを用いた解き方の見通しがもてるまで、全体で確認してから、自分で解決する時間を設ける。その後、図、表、式などを一人一人が言葉で補い、児童同士で、説明し合う時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算が出てくる単元 ・朝学習、家庭学習、地域未来塾 ・各単元 	

<p>第6学年</p>	<p>・四則演算の習得と公式の理解が課題である。^ア</p> <p>・図、表、式などを用いて、自分の考えを筋道立てて表現することに課題がある。^イ</p>	<p>・自分で立てた式の意味を言葉で説明することを通して、公式の意味を考えさせる。</p> <p>・四則演算や作図などの学習の定着には、朝学習、家庭学習、及び地域未来塾（放課後学習）を活用する。</p> <p>・図、表、式などを用いた解き方を途中まで全体で確認してから、自分で解決する時間を設ける。その後、図、表、式などを一人一人が言葉で補い、児童同士で、説明し合う時間を設定する。</p>	<p>・各単元</p> <p>・朝学習、家庭学習、地域未来塾</p> <p>・各単元</p>	
<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>		<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>		
<p>低学年：課題提示、課題把握において ICT 機器を活用し、学習の習得段階に合わせた問題を提示し、課題への理解を深める。【重点：個別】</p> <p>中学年：タブレット端末を使用して、課題に合わせて、自分の考えを伝える。【重点：個別】</p> <p>高学年：タブレット端末を使用して、課題に対する自分の考えを共有し、対話的な学びを行う。【重点：協働】</p>		<p>1年 めあてを振り返るとともに次時の学習への見通しをもたせる。</p> <p>2年 めあての振り返りを学級全体で行い、次時の学習への見通しをもたせる。</p> <p>中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。</p> <p>高学年 めあての振り返りで、次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。</p>		

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにすること。	各学年で主に育成を目指す問題解決の力を身に付けること。 (3年：差異点や共通点を基に、問題を見出す。4年：根拠のある予想や仮説を発想する。5年：予想や仮説を基に、解決の方法を発想する。6年：より妥当な考えをつくり出す。)

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードを書くときに観察の視点にそって書くことに課題がある。ア 比較しながら問題を見だし、実験の見通しをもつことが課題である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点を明確にし、それが分かるような具体的な文例を示す。 児童の気付きから、実験の目的や方法を確認しICT 機器を活用して、視覚的に実験の流れを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察のできる単元 実験のできる単元 	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果から自然で起こる事象への理解につなげることが課題である。ア 前に学習した内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現することが課題である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 実験後に、実験結果と普段の生活で起こる自然現象とを比較して考える時間を設定する。 仮説、結果、考察の流れで学習を繰り返し、科学的な現象と実験を関連付けて考える流れをつかみやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験のできる単元 実験のできる単元 	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習して得た知識を日常生活と結び付けて考える力が不十分である。ア 条件を制御する必要性は理解しているが、自分で条件を整理して実験方法を考えることが課題である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活場面と結び付けて学習したり、視聴覚教材を使って学習したりすることで、知識や理解を深める。 実験方法を考えるときには、問題や予想を振り返り、「調べたい条件だけを変える」と良いことを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 実験のできる単元 	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果から自然で起こる事象への理解につなげることが課題である。ア 問題を追究する中で、妥当な考えを作り出すことが課題である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 実験後に、実験結果と普段の生活で起こる自然現象とを比較して考える時間を設定する。 考察の仕方を確認し、考察が終わった児童には、他の見方はないかを考えさせる。まとめ方の分からない児童には、例を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 毎単元 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>中学年 タブレット端末を活用し、写真や動画機能を用いて記録をしたり、調べて分かったことをまとめたりする。【重点：個別】</p> <p>高学年 タブレット端末を活用し、実験の結果や調べたことを分類・整理して話し合ったり、プレゼンテーションなどにしたりしてまとめる。【重点：個別】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。</p> <p>高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。</p>
--	--